

全市全郡 2021~東京 CW/XPO を添えて

(今回はちょっと相当無駄に長いです、すいません f^_^;)

JM1LZT 富山俊一

オリンピック、パラリンピックが終わり、秋風が立ち始めると、新型コロナウイルス感染者数が劇的に減ってきました。とは言え、結局今年もコロナに振り回され、「懐かしい普通の日常」に完全には戻れないまま年が暮れようとしています。

そんな中、第5波と6波(来ないことを願っていますが)の隙について(?)9、10月のコンテストに参戦したというお話です。

昨年、全市全郡コンテストで「1エリアの2位を全力で獲りにいく」を目標に掲げ、運良く達成出来てしまいました。ならば今年は1位狙いか…といえ、とにかく50MHzCW部門のチャンピオンは圧倒的に強く、今の(そしてタブンこれから)私が勝てるような相手ではありません。と、なると、次なる目標は「全国」2位です。前回は1エリア2位でしたが、全国では3位。言ってしまうと、当人だけの些細なこだわりで、第三者にしてみればどうでもいいことだとは思いますが、出来る限りのことをやり、「腑に落ちたい」だけです。ちょっとカッコつけて言えば、アマチュア無線の定義にある「自己訓練」なるものをトコトンやり切りたいということ。

JARLのメジャーコンテストの中でも、ALL JAと全市全郡は、参加者も多くやり甲斐は十分。全市全郡は规则的にマルチが都道府県ではなく、市郡区というのは、V,UHFでは1エリアが圧倒的に有利です。1エリアの溢れんばかりの局数とマルチをしっかりと取れば、全国2位も夢ではないでしょう。

毎度のことですが、目標達成のためには、やはり場所選びが大きなカギを握っていそうです。都道府県がマルチの4月のALL JAでは、

西のマルチに期待し千葉からトライしてみましたが、「1 エリアをまんべんなくやり尽くす」目的だと、千葉の南方はちょっと不利かもしれません。あれこれ検討した結果、今回は(も)八王子市内の小高い場所からの参戦としました。要は昨年と同じ場所です f^_^;

場所が同じなら、昨年の成績を上回るためには、何か他の要素の進歩が必要。もともとあやしいオペレーション能力は、加齢によりさらに低下の一途なわけで、と、なるとやはりハードの充実しか出口はありません。ついこないだまで、6エレ八木と4エレHB9CVを併用してきましたが、強化策について6エレのスタック化か7エレ導入かで直前まで悩みました。スタックはかなり魅力的なのは言うまでもありませんが、自分一人の体力、気力での設営、撤収のことを考えると、やはり現実的には7エレシングルという結論に。ビームパターンがシャープになり過ぎ、カバー範囲が狭くなるという懸念もありますが、ブーム長7mのRadixの一番軽くてコンパクトなタイプなので知れています。また、6エレとの併用により、ほぼ90~120°ぐらいいはカバー出来そうでもあります(出来るといいなあ)

また、今年から今さらのように導入したRBNとtelnetも期待の新機軸です。全市全郡はマルチをあまり意識せず、とにかく局数をやれば、マルチは自ずとついてくるルールではありますが、やはり「取りこぼし」は避けたいところ。Eスポに代表される特殊で短時間の伝搬はあまり発生しない時期ではありますが、一瞬しか出てこない参加者(オールバンド組や「思いつき」参加者)との一期一会はやはり大切。CQ出しながらも、「近代兵器」で常にバンド内の状況を把握し、必要に応じ呼びにまわるとするのは、やっと今年から始めたスタイルです。もちろん、RBNに出てこない信号も少なからずあるわけで、どんなに技術的な進歩があっても、最後はオペレーター的能力が問われるあたりが、難しくもありやり甲斐でもあると思います。

コンテストの週末、例によって金土と有給休暇を取り、金曜日から設営開始。メインの7エレはローテーター付きタイヤベースで、比較的

設営しやすい(とは言え、11mh に 7 エレを上げるのは本当に文字通り「骨が折れる(折れそうになる)」わけですが、6 エレのために「ただの地面にオバケポールを 8mh 上げる」ってのが、なかなかのクセモノ。今はなきフジインダストリーの移動用ベースを改造して作ったベース(タイヤで踏まない)の固定、設営の方法と手順はいまだに絶賛試行錯誤中です^^;

実は昨年 9 月、全市全郡のロケハンのために鴨川に行き(結局台風のため全市全郡で鴨川からのオンエアは出来ず、今年の ALL JA までお預けとなってしまいました)XPO コンテストに出してみました。で、今年は 7 エレの試験運用のため、全市全郡の八王子の運用予定地から XPO コンテストに参戦。あくまでもテストが目的ではありましたが、気がつくといつの間にやら本気モードに。アンテナのテストより TEST に夢中になってしまい、昨年の自分のスコアの 2 倍に達したところで、何とか打ち止めとしましたσ^_^;

で、迎えた全市全郡の週末。金土の 2 日かけ、どうにかこうにか 7 エレ/6 エレ体制を築き、土曜の午後はある程度仮眠もし、私としては、珍しく余裕ある状態で本番を迎えることが出来ました♪

「下のバンドエッジで始めるか、もうちょっと空いてる所で始めるか問題」は、今回も悩みました。まあ、普通に考えると、下から上に呼び回る方が多いでしょうから、やはりスタートダッシュを決めるには、「下スタート」かもしれません。ただ、呼んでくる方の所での混信や感度抑圧のことを考えると、多少空いてる所の方が見つけてもらいやすいであろうということで(つまりは自分の信号の強さに自信がない)今回もコンテスト周波数の真ん中よりちょっと下ぐらいでスタート。とりあえずは 1QS0/分以上のレートで順調にログが進みました。

しかし好事魔多し。ぼちぼち日付けが変わろうかというところで、お約束の(?)トラブル発生(4 月の ALL JA では widows のプログラム更新が夜中に始まってしまいました) ロギングソフトの ctestwin が突然ダ

ウン[^]; ソフトの機能で常にバックアップはされているので、当初は再起動すれば大丈夫と危機感ゼロ。ところが、ctestwin は再び立ち上がったものの、肝心のログのファイルが見つからない…

「マジかよ…」

あ～でもない、こ～でもないを続けること約 2 時間。一時はリタイヤさえ覚悟しました。

結局はう～んと「深いところ」で何とかファイルを発見し、戦線復帰出来たのは午前 1 時半ぐらい。手痛い空白です。しかし、落ち込んでいてもしょうがない。とにかく戦闘再開し、どうにか 3 時過ぎから小休止、4 時には再び戦線復帰。早朝の特殊な伝搬に期待して北や西にアンテナを向けましたが、思ったほどの成果はなし。それでもここで今回のハイライトシーンが。今や日本を代表するコンテスト界の絶対王者 JH4UYB と遂に交信♪もちろん他の 4 エリアの局は影も形もありません。彼の信号だけが S2～3 ぐらいで入感。パワーの差を考えるとこちらの信号はカスカスであちらに行ってたはずですが、とにかく交信成立、たぶん… 飛びはもちろんですが、やはり絶対王者は耳もいい。学ぶところ大です。

日曜の日中は参加者も増え、午後にはようやく昨年の自分に追いつきました。そしてそんな頃、あろうことか 14 時前後に 8 エリアが入感。10 月のこの時期に E スポ？もちろん大慌てで 7 エレを北に向け、バンド中を聞き倒し、CQ もちょっぴり。結果的に北海道のマルチを 4 つほど手にすることが出来ました。「マジックバンド」50MHz、やっぱりおもしろいです♪

秋の日はつるべ落とし。17 時を過ぎた頃に空は暗くなり始め、参加者のアクティビティも急降下。「お山組」には下山しちやった方も多かったことでしょう。聞こえてくるのはもう同じ局ばかり。CQ を出しても 5 分に 1 局呼ばれればいい方で、18 時台なんか 5QSO… ライバルと目される(?) 方々の信号もだんだん減り、疲れと焦りから、例によって一

番キツイ時間帯となりました。しかし、ここで止めたら悔いが残るのは必定。何とか歯と目を(?)食いしばり、21 時のゴールに向けて最後の追い込みです。



コンテストに出る度に考え、いまだに正解が見つかっていないことに「CW の速度はどの程度が最適か？」ってのがあります。コンテスト終盤ともなると、どうしても焦る気持ちから、速めに送信したくなります。経験上 50MHz のコンテストでは 23~25wpm ぐらいが適していると思ってますが、ある程度時間帯によって使い分けています。開始直後土曜の夜から日曜の早朝は比較的「気合の入った」方が多いだろうということで、25wpm を標準とし、日曜の日の出から午前中は「おっ、コンテストやってんのか。一丁呼んでみるか」組の方々に呼んでもらいやすいよう、22 か 23wpm ぐらいに減速。午後はマルチバンドエントリー組を想定し 25wpm ぐらい。そして、終盤。「最終チェックにやってきたマルチバンド組と一見さん混合」の時間帯？マルチバンド組の CQ を 25wpm 以上で呼び回りながら、一見さんを想定した 22,3wpm で CQ。

果たしてこれが「最適解」なのか、全く自信がないまま、毎回手探りが続いています。7MHz あたりなら 25~28wpm ぐらいで最初から最後までやることも可能かと思いますが、50MHz には 50MHz の歴史と文化、そして伝搬特性が。まだまだ研究の余地ありまくりみたいです。

日曜 21 時、終戦です。途中ロギングソフトのトラブルもありましたが、どうにかこうにか去年の自分を局数、マルチともに僅かですが上回る事が出来ました。

2020 年 273 × 148=40404

2021 年 288 × 154=44352 (暫定値)

気になるライバルは多数いらっしゃいましたが、やれるだけのことはやったので結果には大満足。

コンテスト中はほとんどまともな食事をしておらず(忙しいからもありますが、食べ過ぎると眠くなる^;)、今回もヴィダーインゼリーを中心とした「カブトムシ生活」だったもので、最近は終了直後にとりあえず湯を沸かし、カップ麺を食べるのが最大の楽しみに。今やほとんどそのために 24 時間戦っていると言っても過言ではないぐらいです f_^;

温かいカップ麺とコーヒーで腹と心を満たし、そのまますぐ車中で眠りに落ちたのは言うまでもありません。

月曜は 6 時ぐらいに目覚め、祭りの後始末です。池さん、木村さんの朝の定時交信に混ぜていただいた後、ダラダラのそのそとお片付けが終わったのは 11 時ぐらいだったでしょうか。

実はこの 2 週間後に、東京 CW コンテストにも参戦しました。例年、私にとって秋はコンテストシーズンで(11 月には多摩川コンテスト参戦予定)「家庭内 SWR」が一番高くなるヤバい季節でもあります^;

東京 CW は昨年何とか 2 位になれたので、傲慢にも今回は「その

上」を目指しての完全本気モードです。

秋はコンテストシーズンであると同時に、お仕事の「農繁期」の始まりでもあり、東京 CW のために土曜の有給休暇は取るわけにもいかず(全市全郡で取ったばかり…)それどころかコンテスト前日の土曜日は、朝から夜中まで 14 時間労働。コンテストは日曜の朝 6 時スタートなので、仕事を終え帰宅後すぐに全市全郡と同じ運用地へ移動。ほんのちょっとだけ車中で仮眠し、まだ真っ暗な 4 時頃から設営開始。昨年は実際に電波を出せたのが 7 時を過ぎちゃってたので、今回は意地でも 6 時の開始時刻に間に合わせるべく老体にムチ打って全力で設営。どうにかこうにか 6 時ちょっと前に 7 エレだけは上げ終わり、今回はアンテナ 1 本でやることに決定。基本的に都内方向に向けときゃいいので良しとしました。

しかし、気合を入れてオンエア開始してみたものの、まあバンド内は静かなもので、CQ を出してもあつという間に「ネタ切れ」になり、ならば呼び回りかとなったものの、4,5 局呼び回ったら後は何も聞こえない^; 覚悟はしてましたが、やはり東京 CW の 50MHz は己の忍耐力との勝負みたいです。

それでも日が昇るにつれぼちぼち呼ばれ始め、最終的にはギリギリ昨年の自分を上回れることは出来ました(昨年の 1 位は上回れていない)

結果はどうなるか分かりませんが、もし優勝出来れば、5 月の東京コンテストに続き連覇(?)ということになりますか…さて?

今回も一連のコンテストで至らぬ私のお相手いただいた 240 諸兄に、心より感謝しています。本当にありがとうございました。結果を出すことが最大の「恩返し」と心得、これからもあ〜でもない、こ〜でもないを続けていくかと思っておりますので、よろしく願いいたします。また、今回もコンテスト中、日光の山奥から叱咤激励罵詈雑言誹謗中傷を重ねてくれた、古くからの友人に深く感謝しています。参加部門は異なっても、彼はよき心のライバル(そして友だち)です♪

実は後日談として、JARL から今回全市全郡のログを提出した各局の審査前スコアが公表されました(今年の 6m and down あたりから始まった制度みたいです)エクセルに取り込んで整理してみたところ、暫定ではありますが、目標としていた無差別級全国 2 位(そして M クラス全国 1 位)が達成出来ちゃったかもしれません。もちろん、審査の結果、減点はあると思いますし、まだまだ安心は出来ませんが、とりあえずは一安心。

来年 4 月の ALL JA までメジャーコンテストは一時休止ですが、「冬休み」の間に、いろいろな、「宿題」を片付けたいと思っています。出来るかなあ…σ^_^;